

生物機能研究の推進

21世紀は科学技術の時代であり、とりわけ生物系がその中核となるといわれている。そのためか、昨今ではどこを向いてもバイオテク、バイオテクと轰しい。

バイオテクノロジーとは、「生物がもつ機能を効率的に利用する技術」と定義されているが、世の中に喧伝されるのは細胞融合とか、遺伝子操作とか手法の開発ばかりのような気がする。Aの生物からBの生物へ一体いかなる機能を注入しようとするのか。組替えて利用しようとする機能のリストがそろっているのか。バイオテクを活用して、従来の不可能を可能とするためには、手法開発とともに生物のもつ多種多様な機能の解明が必要ではないのか。本来、農林水産業は生物の機能を利用する産業であるといえるが、最近では動植物間の形質変換でさえ可能となってきた。さすれば、陸海空、チミモウリョウ、生ける物全ての様々な機能解明に取組まなければならない。

このような背景から、われわれも新年度予算で10年計画、約50億円の大プロジェクトを組むこととした。この研究では、生物の生長、生殖、環境耐性、生体防御等における情報の認識、伝達、制御機構を分子・細胞から個体にいたる各レベルで把握し、さらに総合的な発現機構の解明にまで及び、一ランク上の次世代革新技術の土台にしようと欲張っている。

機能解明の大先達である当協会のメンバー各位のご協力・ご指導を切に願うものである。

〔農林水産省農林水産技術会議事務局長 畑中孝晴〕

目次 (第21巻 第10号)

巻頭言

生物機能研究の推進…………… 1

＜農林水産省技術会議事務局長

畑中孝晴＞

牧草・飼料作物の栽培と雑草防除…………… 2

＜農林水産省草地試験場 飯田克実＞

1. はじめに…………… 2

2. 雑草害と除草剤の利用…………… 4

3. 有毒・有害雑草と帰化雑草…………… 5

4. 牧草・飼料作物と除草剤…………… 6

5. 今後の課題と対策…………… 7

6. おわりに…………… 8

昭和62年度春夏作芝関係除草剤・生

育調節剤試験成績概要……………11

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会

技術部＞

昭和62年度桑園関係除草剤・生育調

節剤試験成績概要……………20

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会

技術部＞

除草剤と関係した頃(3)……………23

＜元新潟県農業試験場長 丸山 篤＞

まえがき……………23

2. 除草剤効果と増幅……………23

3. 事故処理さまざま……………24

4. 除草剤のライフサイクルと更

新……………25

おわりに……………26

植調協会だより……………26